

アクションプランを踏まえた 事業の進捗状況について

平成30年8月30日

京都府農林水産部農産課 京の米・豆・保険担当

アクションプラン策定の背景について

1 国の米政策見直し(平成30年～)の概要

- 目的:生産者や集荷業者、団体が米の生産販売量を自ら決められるようにすることで、経営の自由度を高める
- 変更点:行政による米の生産数量目標配分の廃止
米の直接支払交付金(7,500円/10a)の廃止

2 京都府農業への影響

- 生産数量目標配分が廃止され、増産抑制要因がなくなることにより、
 - ①主産県における増産で米の需給が緩み、米価が下落するおそれ
 - ②消費県である京都府への販売攻勢が強まり、京都府産米のシェアが縮小されるおそれ
- 米の直接支払交付金削減により、農家所得が減少

3 対応

- 京都府では耕地の約8割を水田が占める中、耕作放棄地を防ぎ農業・農村を守るため、需要に応じた「京の米」の新たな戦略が必要
→「京の稲作と農地を守るアクションプラン」(²⁹新規事業を立ち上げ)
- 野菜等の米以外の品目の産地形成を含む中期的な水田活用ビジョンづくりが必要
→「京都府水田農業ビジョン」
- 平成30年産米の生産に当たり、米の直接支払交付金が廃止される中、農家の所得確保を図るため、早急に対策を講じる必要がある→「京の米農家維持緊急対策事業」



京の米農家維持緊急対策事業

2億円規模

～米政策の見直しを踏まえた農家の所得確保～

③当初 220 百万円

米生産低コスト化緊急対策事業

- 共同機械導入等による低コスト生産支援
 - ▶ 生産の効率化に必要な大型機械等の導入(補助率1/2以内)
 - ▶ 農業用施設の予防的修繕などの低コスト化(補助率1/4以内)

米価向上・販路拡大緊急対策事業

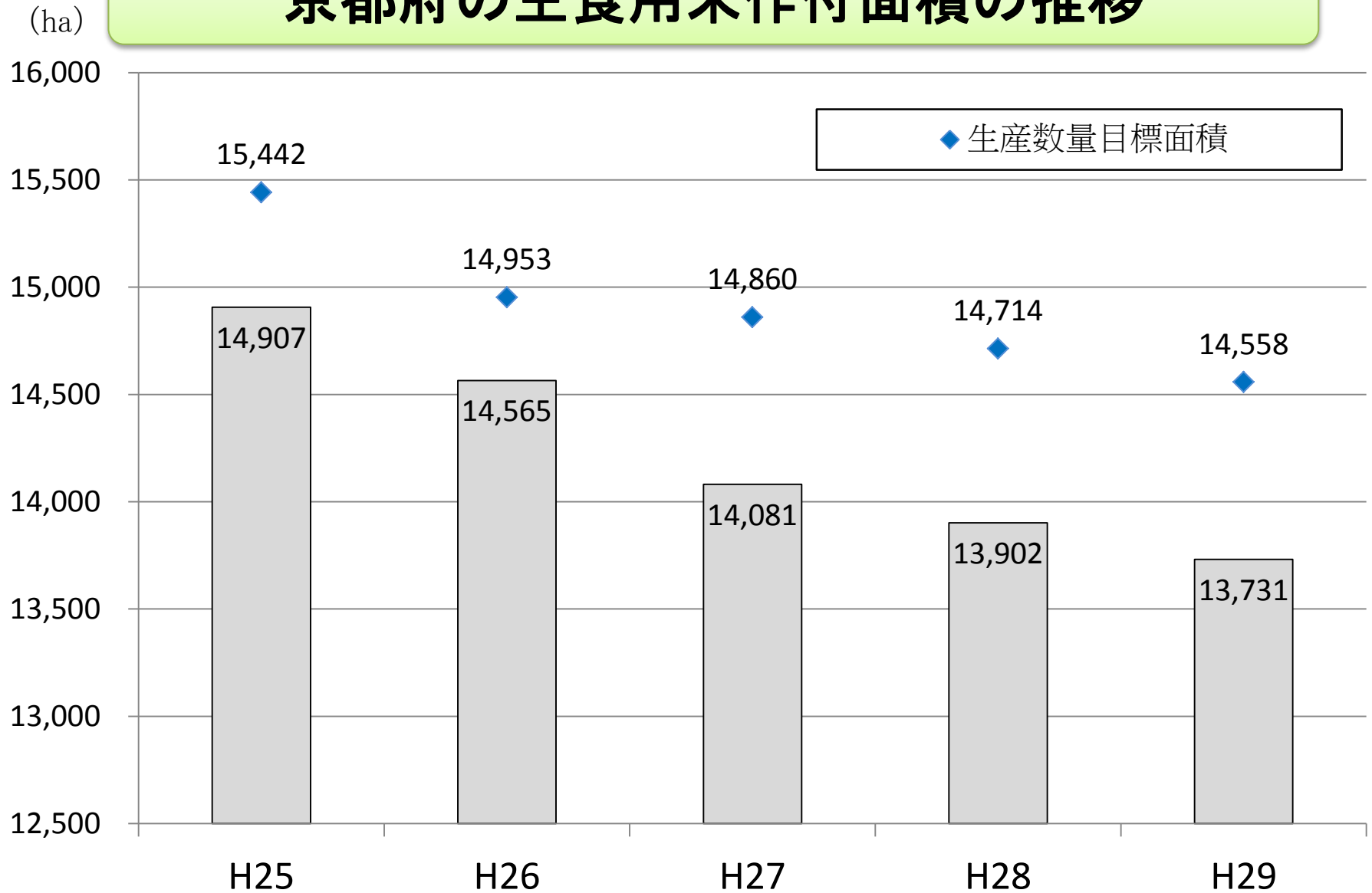
- 市場評価の向上と販路拡大による所得向上
 - ▶ 社員食堂等への多収の主食用米などの販路拡大の支援(補助率1/2以内)
 - ▶ 市場評価向上を図るため、おいしい米コンテストを開催

米転換作物生産拡大緊急対策事業

- 米からの転換をハード・ソフトで支援
 - ▶ 「京の輝き」の生産拡大等に必要な共同機械等の整備(補助率1/2以内)
 - ▶ 飼料用米や稲WC S、小豆、黒大豆等の生産拡大・品質向上に必要な機械等の整備(補助率1/2以内)
 - ▶ ブランド京野菜等の導入に必要な施設等の整備(補助率1/2以内)
 - ▶ 米からの転換に係る経営相談や専門家派遣等により、生産拡大を支援



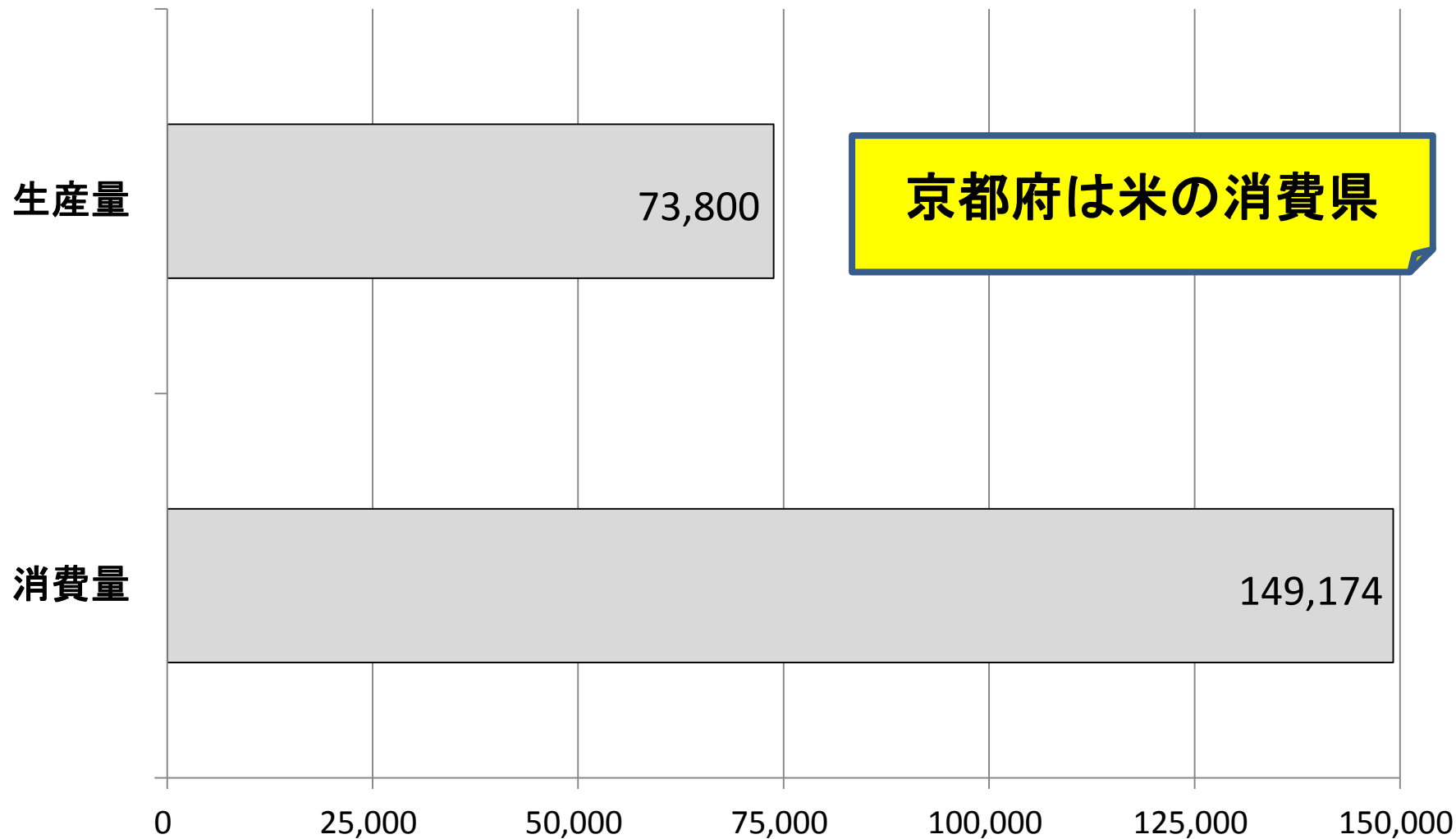
京都府の主食用米作付面積の推移



主食用米の作付面積は減少

※京都府農業再生協議会調べ

府内の米の生産量と消費量



生産量: H28農水省統計

消費量: 京都府農産課推計 (府推計人口 (2,602,029人) × 1人1年あたり純食料 (米) (54.6kg/人・年) × 105% (観光入込客 + 昼間人口増加分))

(トン)

京の稲作と農地を守るアクションプラン

骨太方針：世界に通じる京都ブランドと産学公の総力で「京の米」を成長産業に押し進める。

目 標

- 1 インバウンドも含めた国内外のマーケットデータの活用と京都ブランドの確立による**販路開拓**
- 2 京都に結集している食に関係する多種・多様な産業とコラボした**需要の創造**
- 3 知恵産業や大学などのノウハウやアイデアを活かしたコメの**生産効率化**

3つの目標と施策体系

販路開拓

インバウンドも含めた国内外のマーケットデータの活用と京都ブランドの確立による**販路開拓**

- (1) 消費者ニーズや消費嗜好データを産地や実需者へフィードバックする仕組みの整備

- A マーケットデータ活用型「京の米」等の農産物需要創造事業
- B 「京の米」ニューフロンティア開拓事業
- C 京都版ふるさとCSA支援事業

- (2) 食味にこだわったターゲット別（高級路線、一般消費者向け）の新たなマーケット開拓

- D 「京の米」ベンチャーコンペティション事業
- E 「京の米」オリジナル品種開発事業

需要の創造

京都に結集している食に関係する多種・多様な産業とコラボした**需要の創造**

- (1) 新たな需要の創造
(2) 日本酒、米菓、味噌など食品加工業者との結びつきの拡大
(3) 京の米や米加工品を使用した地場産品等の販路開拓等のPR活動

- F 「京の米」6次産業化事業
- G 「京の米」新マーケット拡大事業(③⑩拡充)

生産効率化

知恵産業や大学などのノウハウやアイデアを活かしたコメの**生産効率化**

- (1) 省力化や低コスト生産対策の拡充
(2) 食味や実需者ニーズにこだわった生産対策の創設

- H 「京の米」生産イノベーション事業

各事業の進捗状況

販路開拓

A マーケットデータ活用型「京の米」等の農産物需要創造事業

SNSデータ分析により、米に関する消費者ニーズ把握

●調査メディア：国内主要ブログ、Twitter、Facebook、SnapDish

●分析結果の概要

①米に対する興味関心や趣味嗜好を分析

- ・ブランド米と産地は一体となって語られる。(〇〇産の××)
- ・ブランド米は、味や食感について具体的な感想が述べられている。
- ・京都のコメに関する話題は1件のみで、「京都」に「コメ」のイメージはない。

②米に対する関心が高まるタイミングや要因を分析

- ・コメの話題は季節性(新米、七草、米の日、おむすびの日等)の高い話題と合わせて、投稿件数が増加
- ・投稿数を増加させるインフルエンサーは、地方紙や情報サイトの公式アカウント、食品メーカー、通販事業者、スポーツインストラクターなど



どのような米を作り、どのように売っていくかの参考とする
(京都府オリジナル品種の育成等にも活用)

各事業の進捗状況

販路開拓

B「京の米」ニューフロンティア開拓事業

「京の米」の専用サイト「KYOTO米(まい)」を開設

KYOTO米を食べる

「京の米」を使った料理を提供する店舗を紹介

KYOTO米を買う

「京の米」を取り扱っている府内米穀店等を紹介

KYOTO米を体験する

一般の方が参加できる農業体験イベントを掲載



他にも、京都の酒米で作られた「京の酒」を飲める店舗の紹介や、ライターによるコラム記事など、様々な面から、「京都のお米」の魅力を発信。

各事業の進捗状況

販路開拓

C 京都版ふるさとCSA支援事業

都市が生産を応援するふるさとCSAモデルづくり

- 農村地域や農作物の魅力を生産者が直接都市の住民に伝えるトークイベントや生産者と都市部のホテル・生活協同組合との交流・連携等の実施を支援
- 事業者：4団体
((株)丹後王国、JA京都農産物直売所たわわ朝霧等)



➡ 平成30年度公募期間：7月17日～12月28日まで

各事業の進捗状況

販路開拓

D 「京の米」ベンチャーコンペティション事業

おいしいお米コンテストを開催し、市場評価を向上

京のプレミアム米コンテスト（平成29年度）

- 生産者の米づくりに対する意欲を醸成し、栽培技術を向上
- 京の米のおいしさを広くPRし、ブランド力を向上
- 応募点数：120点（113農業者）（品種別内訳 コシヒカリ84点、キヌヒカリ10点、ヒノヒカリ26点）

1次審査

- 食味測定器等により選抜（120点→30点）

2次審査

- 味度メーターにより、食味を測定
- 15名の府民審査員（公募）の試食により、食味を評価（30点→8点）

最終審査

- お米や京料理の専門家で6名が食べ比べ、各賞を決定

最終審査の審査員（50音順）

お米の専門家

上田 那未（5ツ星お米マイスター、玄米屋ウエトミ）
橋本 隆志（5ツ星お米マイスター、株式会社 八代目儀兵衛
代表取締役社長CEO）

京料理の専門家

杉本 節子（料理研究家、公益財団法人 奈良屋記念杉本家保存会
常務理事兼事務局長）
田中 良典（京都料理芽生会 理事、京料理とりよね 代表取締役）
田村 圭吾（京都料理芽生会 会長、京料理萬重 若主人）
仲田 雅博（学校法人 大和学園 学園理事、京都調理師専門学校 校長）



最終審査員による食味審査

京のプレミアム米コンテスト受賞者



JA京都にのくに良食味米研究会
(株)アグリテックいかる (綾部市)
コシヒカリ



辻 典彦 (京都辻農園)
(八幡市)
ヒノヒカリ



山下 晴生
(福知山市)
コシヒカリ



新矢 隆志
(南丹市日吉町)
コシヒカリ

入賞

- とくみ農産 徳見 晃 (南丹市八木町)
- (株)ファームきぬがわ (福知山市夜久野町)
- 伊達農園 伊達正将 (与謝野町)
- 北川 五男 (宇治市)



成果

- 首都圏の百貨店への販路拡大に繋がった
- おいしいお米であることが証明され、取引量の増加に繋がった
- 地域のお米がおいしいことが分かり、大きな自信がついた 等



- 京都のお米の発信力・認知度アップ

第2回京のプレミアム米コンテスト（平成30年度）

出品申し込み期間：平成30年8月1日（水）～31日（金）まで

＜昨年度からの主な変更点＞

- ・募集点数の制限なし
 - ②9先着順、定数で募集締切
 - ↓
 - ③0申込期間中の応募は全て受付
- ・最終審査の時期を前倒し
 - ②91月12日→③012月3日

京都でおいしいお米づくりに取り組む農業者・組織を募集します!

第2回 京の
プレミアム米
コンテスト

府全域で行う
おいしいお米
コンテスト

京都は、豊かな自然、清らかな水に恵まれ、
全国でもトップクラスのおいしいお米の産地です。
京のおいしいお米づくりに取り組む農業者の皆さんの
生産技術の一刻の向上と、京の米のおいしさを
広くPRし、ブランド力を高めることを目的に、
第2回「京のプレミアム米コンテスト」を実施します。
多くの農業者の皆さんのご応募をお待ちしています。

申し込み方法は裏面へ▶

各事業の進捗状況

販路開拓

D 「京の米」ベンチャーコンペティション事業

産地評価の向上による有利な販路の確保

- 良食味米の生産に向けた実証ほの設置や技術研修、食味評価会等を行う取組を支援
- 事業者：4地域（丹後、中丹、南丹、山城）



丹波キヌヒカリが日本穀物検定協会の食味ランキングにおいて2年連続「特A」を獲得。イベント等でPRを実施

各事業の進捗状況

販路開拓

E 「京の米」オリジナル品種開発事業

京都府オリジナル良食味米の開発

開発の方向性

- コシヒカリ並の熟期で、高温耐性が強く、良食味のオリジナル品種を育成
- 京都府の主食用米の看板品種として、ネーミングも含めて府民が親近感を持ち、観光客にとっても魅力ある品種を目指す

開発スケジュール

- 平成29年度
 - ・候補品種11系統から、栽培試験と食味試験の結果をもとに、有望3系統に絞り込み
- 平成30～31年度(2年間)
 - ・3系統について、農業者による現地試験を踏まえ、1系統に絞り込み
- 平成32年度
 - ・農業者による試験栽培を開始
- 平成33年度
 - ・農業者による本格栽培を開始



H29: 京都の料理人(京都料理芽生会)や米穀店主(お米マイスター)による食味試験

各事業の進捗状況

需要の創造 F 「京の米」6次産業化事業

「京の米」を用いた商品の開発、市場開拓及びPR活動

- 山城地域における特別栽培米「やましろの恵」を用いた新商品（茶がゆのレトルトパック、京たけのこごはんセット等）のPR、販売体制の整備を支援



- 「祝」や「京の輝き」等の「京の米」を使用した日本酒のPRの取組（消費者対象イベントにおける試飲会）に対して支援



➡ H30: 引き続き「京の米」を使用した日本酒のPRの取組を支援

各事業の進捗状況

需要の創造 G 「京の米」新マーケット拡大事業

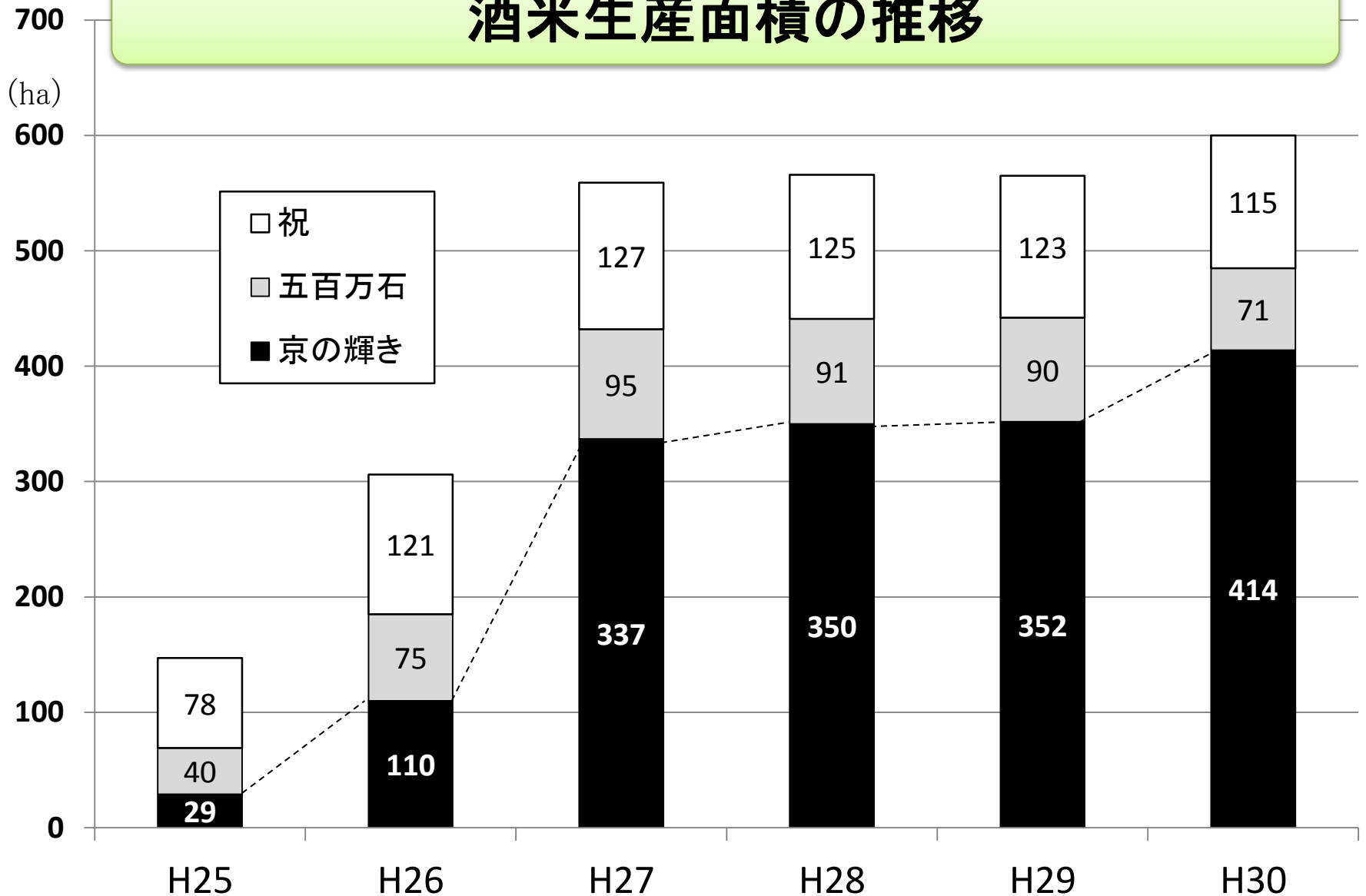
京の地場産業や中食・外食等のニーズに対応する取組

- 中丹地域において、京都府酒造組合から要望のある酒造用原料米の生産拡大と品質向上に対応するため、研修会・互見会等の取組を支援



H30: 引き続き、栽培研修会の実施や意見交換会の実施を支援

酒米生産面積の推移



「京の輝き」の生産面積が増加しているが、酒造組合の要望数量には足りていない(△40ha)。

- 丹後地域において、京都府味噌工業協同組合から要望のある白味噌原料用の加工用米の生産拡大に対応するため、超多収米(オオナリ)の現地試験栽培等の取組を支援



➡ H30: 実需者から要望のある多収の主食用米の現地試験栽培等の取組への支援も新たに開始

各事業の進捗状況

生産効率化 H 「京の米」生産イノベーション事業

事業概要及び実施状況

予算額

②9 55,000千円

③0 55,000千円

①生産の効率化に必要な大型機械等の導入（補助率4／10以内、一部1／2以内）

●実需者ニーズ（酒米や特別栽培米等）に対応するために必要な機械や施設の導入

【実施状況】

事業年度	支援件数	支援内容
29年度	19件	田植機、色彩選別機等の導入 ＜酒米：4件、特別栽培米：14件、その他（食味値反映）：1件＞
30年度	22件 （予定）	コンバイン、乾燥機等の導入 ＜酒米：4件、特別栽培米：13件、その他（業務用米等）：5件＞

②共同乾燥施設など農業用施設の予防的修繕（補助率1／4以内）

【実施状況】

事業年度	支援件数	支援内容
29年度	6件	育苗施設：1件、貯蔵庫：1件、ライスセンター：3件、 カントリーエレベーター：1件
30年度	6件 （予定）	貯蔵庫：1件、ライスセンター：5件

各事業の進捗状況

生産効率化 H 「京の米」生産イノベーション事業

生産の効率化に必要な大型機械等の導入

- 実施主体：農事組合法人（亀岡市）
- 導入内容：当該法人が農地集積を進めるとともに、需用のある特別栽培米の安定的な出荷販売を行うために必要な機械の導入を支援（コンバイン、乾燥機等）



各事業の進捗状況

生産効率化 H 「京の米」生産イノベーション事業

共同乾燥施設など農業用施設の予防的修繕

●実施主体: ①農事組合法人 ②農業協同組合

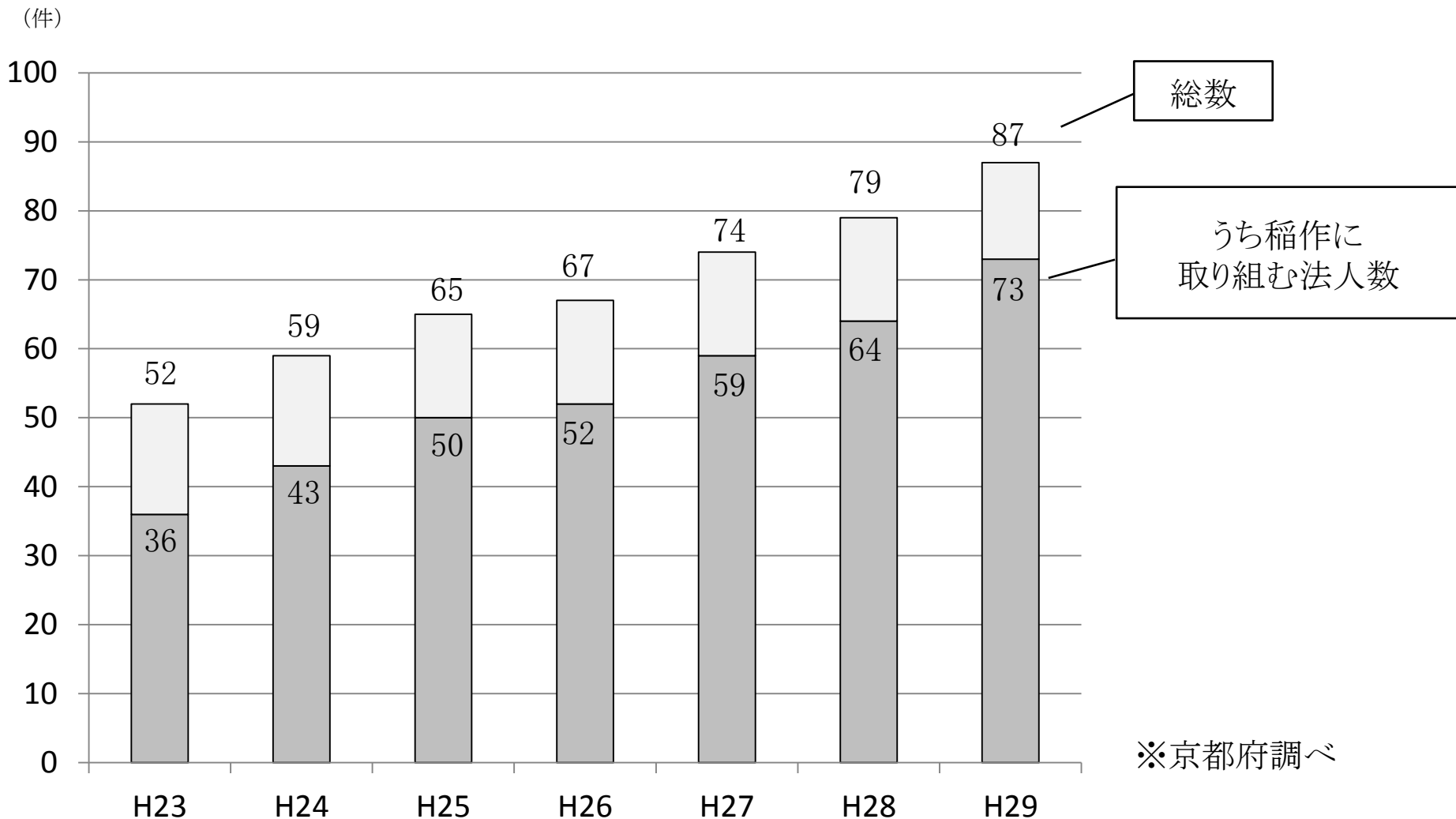
●導入内容

①水稲育苗ハウスの点検および修繕を支援

②貯蔵庫の点検および冷蔵ユニットの修繕を支援



京都府における集落型農業法人数の推移



大型機械・共同施設の導入支援など生産の効率化の促進に伴い、集落型農業法人も着実に増加

今後の取組方向について(論点)

3つの目標	内容と成果	今後の取組方向(論点)
販路開拓	<ul style="list-style-type: none">● SNSデータ分析による消費者ニーズ把握● 「京の米」の専用サイト構築● CSAの取組を支援● おいしいお米コンテストの実施● 京都府オリジナル品種の開発に着手	<ol style="list-style-type: none">① 更なる販路開拓を進めるために必要な取組は何か② 新品種のブランディングを進める上で求められる視点と必要な取組は何か
需要の創造	<ul style="list-style-type: none">● 「京の米」を用いた商品の開発、市場開拓及びPR活動を支援● 京の地場産業や中食・外食等のニーズに対応する取組を支援	<ol style="list-style-type: none">③ 食品産業等の需要に基づいた生産を更に推進するために何が必要か
生産効率化	<ul style="list-style-type: none">● 生産の効率化に必要な大型機械等の導入支援● 共同乾燥施設など農業用施設の予防的修繕支援	<ol style="list-style-type: none">④ 生産効率化を更に推進するにはどのような取組や支援を行えば良いか

今後の取組方向について(参考資料)

京都府オリジナル良食味米の開発

今後の検討事項

●ブランド米としての推進戦略

◇ポイント1 「おいしい」お米を作る

◇ポイント2 PRなどを行い、「知名度を上げる」

方向性(案)

●「おいしい」

- ・京都の料理人やお米マイスターによる食味審査(実施中)
- ・栽培基準の遵守などによる区分出荷の実施
- ・共励会の実施により、産地全体の食味の底上げ

●「知名度」

- ・名称について府民公募等を実施し、京都らしい名前で販売
- ・料亭などPR効果が高い売り先へ販売